



自慢の歌声で自ら宿泊客をもてなす柴野社長

「もてなし、 続け 500 回」

皆生菊乃家 社長のフォークライブ

に歌い続けた柴野社長は、千回目のステージを目指し晝夜を新たにしている。

学生のころから趣味でギターを演奏する柴野さんは、二〇〇三年から館内ロビーでライブ活動をスタート。フ

ォーク全盛時代の名曲マーティムドリーム」やフォークの名曲「神田川」などに加え、皆生トライアスロンのテーマソング「サ

岬」やフォークの名曲「神田川」などに加え、皆生トライアスロ

ンのテーマソング「サマータイムドリーム」など七、八曲をギターの弾き語りで披露する。歌詞カードを手にした客と合唱で盛り上がるくだけは、往年の

皆生温泉の旅館「皆生菊乃家」（米子市皆生温泉四丁目）で、柴野憲史（五七）自ら弾き語りを披露する名物イベント「フォークソングライブ」が、通算五百回を達成した。同温泉のPRになればともてなしの心を胸

を中心に毎週末ごとにライブを続け、今では旅行会社のパンフレットに紹介されるなど、同旅館の名物イベントとなっている。

午後九時から約一時間にわたって開かれるライブでは、森進一の声を模写した「襟裳」は体力的にもきつくなっている。柴野さん。「定期ライブは体力的にもきつくて、途中、何度もめようと思ったか分からぬ」と五百回に至るまでの長く険しい道のりを振り返る。それで

も続けてきたのは、「ライブを通してお客様と直接触れ合える」からだ。

五百回目の記念とな

る十一日のライブを聴いた宿泊客で、奈良県大和高田市から訪れた五十代の夫婦連れは「旅館でこんなすてきな生演奏が聴けるとは思わなかつた。とても楽しかつた」と大絶賛。柴野さんは「一人でも多くの人が皆生温泉を訪れるように、今後も技術を磨いていきた。将来は、地域のあちこちで音楽の生演奏が聴けるようなまちづくりができるれば」と抱負を語っていた。

現在、ライブは土、日曜を中心を開催。併せて、宴会客の前で歌う「お座敷ライブ」も精力的に展開する。

歌声喫茶をほうふつとさせる。

社長業のほかにも、

皆生温泉旅館組合長と

して多忙な日々を送る

柴野さん。「定期ライブは体力的にもきつくて、途中、何度もめようと思ったか分からぬ」と五百回に至るまでの長く険しい道のりを振り返る。それで

も続けてきたのは、「ライブを通してお客様と直接触れ合える」からだ。